

---

# 狼少年と嘘吐き少女

櫻木 夢羽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狼少年と嘘吐き少女

### 【Z-UR-ド】

Z3092M

### 【作者名】

櫻木 夢羽

### 【あらすじ】

笑いながら嘘を吐く少年と、泣きそうになりながら嘘を吐く少女のお話

ほら、また君の笑顔が凍りつく。僕が嘘を言つから。僕が笑いながら嘘を吐くから。僕が嘘吐きだから。僕が狼少年だから。

「この前ね、魔女に会つたんだ。お菓子の家の魔女にね。凄い恐かつたんだよ」

「…………そう」

どうしようもなく悲しい。そんな表情を顔面に飾りながら、君は笑う。そんな顔が、僕は世界で一番嫌い。

だけど、それでも僕は嘘を吐く。

「凄く恐ろしい奴だつたんだよ。だけどね、全然恐くなかったんだよ

「さつき恐かつたつて言つたわ」

知つてるよ、自分で言つたんだから。それくらい分かつてる。

「…………僕は魔女に捕まつたんだけど、妹が助けてくれたんだよ」

「妹なんていないでしょ？」

僕は、にこり、と笑つてみせる。君は、泣きそうになりながら笑い返す。

「そう、その通りだね、うん。…………それよりさ、体は平氣

？」

「ええ。すっかり良くなつたわ」

嗚呼、君は気付いてる？自分の顔が、今どれだけ醜いか、知つてる？泣きそうなのに、笑つてる。馬鹿みたい。

その言葉が嘘だと、僕は知つてるよ。君が、僕に嘘を吐いてることは知つてるよ。知つてるんだ。

「本当に？」

「ええ、後少ししたら、歩けるようになるって」

ねえ、君は知つてる？その、『あと少し』が何回目か。僕は、数

えるのを諦めたよ、といへの昔。

「じゃあさ、歩けるよなつたひ、僕の家におこでよ。母さんも、父さんも喜ぶよ、きっと」

また、君の顔は僕の大嫌いな顔になる。

「お父さんとお母さんなんて、いないでしょ?」

「何言つてゐの?あ、妹もきっと喜ぶよ」

その顔がなければ、とっても幸せな筈なの。

「何で、何で嘘ばかり吐くの?」

「偽り」それが、本当の優しさ。真実」それが、この世で最も残酷だ

「え・・・・・?」

君の間抜け面を見下ろして、僕は笑つてみせる。

「君が言つたんだ」

「そんなこと、言つてないわ

ああそりそり、君は言つてない。

「でも、さう思つてゐるだろ?だから、僕に嘘を吐くんだろ?」

「なん、のこと?」

まだ、嘘を吐くのかい。君は、嘘を嫌つのに。滑稽だね。

「君は、後数ヶ月で死ぬんだ。そうだろ?君の病気は治らないんだ。知つてるよ。ずっと、ずっと前から

「なんで・・・・・?」

嘘がばれるのは、そんなに恐いこと?

「嘘を吐くなとは言わないよ。けれど、嘘で姿を隠されてしまつのは、とても寂しい。君は、知つてるだろ?」

「ねえ、僕らに残された時間は残り僅かだ。だけど、後数ヶ月位は、素直に生きてみない?」

(後書き)

結局自分は何が言いたかったのでしょうか；

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3092m/>

---

狼少年と嘘吐き少女

2010年10月20日19時53分発行